

「『歩くこと』と『歩むこと』について」

11月になりさらに秋が深まっています。10月も比較的暖かい日があり、11月も小春日和があることでしょう。コスモスの美しい時期となり、先日、教会でもコスモスが活けられました。



11月は運動するにはよい時期であり、近くの山をハイキングしたり、健康のために歩数やカロリー消費などを計算する機器（歩数計、最近ではスマートウォッチというものもあるようです）を携帯しながら本格的なウォーキングをする人たちもいますし、習慣的に近くを散歩する人たちもおられます。普段、私は車で移動することが多いのですが、歩くことによって知らない道や建物、光景があることに気づかされます。3月25日には西讃にある複数の教会において、プレイヤーウォークというものが開催されました。プレイヤーというのは、実際はプレナーで「祈り」という意味があり、神様に祈りながら歩くということです。一人ですることもできますが、組やグループになって、その地域のために歩きながら祈るという実践です。実際に歩くということはその地域への関心が深まります。多くの宣教師の方々も集まりました。また10月27日には、ある宣教団体の「ウォーク・ウィズ・ジーザス（イエスと共に歩くという意味）」という働きに関わる方々が、国分寺キリスト教会に立ち寄り、宿泊し、翌日、今回の最終目的地である松山へ向けて旅立ちました（到着は11月7日）。歩きながら、地域のために祈り、出会う人にキリストをお伝えしたり、読み物（トラクト）を手渡しされています。歩く時期や参加人数はさまざまで、日本各地を歩いておられます。昨年2024年9月には徳島から高松までを歩かれ、今回は前回の続きのようです。

国分寺キリスト教会は10月が歓迎礼拝月間でしたので、集会後に教会員の方々に近隣の方々へチラシ案内を配布していただき、また今回は一度も配布したことのない市内の地域や新興住宅地にもチラシを配布しました。すぐに応答があるわけではありません。イエス・キリストの時代は当然、車もバイクも自転車もありませんでしたから、実際に地域を歩いての宣教活動であることが聖書の4つの福音書には詳しく書かれています。

また実際に歩くこと以外にも、信仰生活を送るという意味で、「歩む」という言い方をします。聖書の中のコロサイ人への手紙2章6節には「このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストにあって歩みなさい。」と書かれています。キリストにあって歩むということはキリストにあって信仰生活を送るということです。そうするためにも、まずキリスト・イエスを受け入れること、すなわち信じることが求められています。つまりナザレのイエスさまこそがキリストすなわちメシア、救い主であることを受け入れることです。なぜ受け入れる必要があるのかと言えば、私たちは生きておられるまことの神様によって造られたにもかかわらず、神様から離れ、さまよい、このままでは滅びてしまう存在です。人間には罪があります。闇そのものです。しかし私たちのような者のために、イエスさまはキリスト・救い主としてこの世界に来られ、罪と死と滅びから救うために、十字架にかかり、苦しまれ、死なれたのです。そして復活されました。エペソ人への手紙5章8節では「あなたがたは以前は闇でしたが、今は、主にあって光になりました。光の子どもとして歩みなさい。」とそのように実際に生活することがクリスチャンたちに向かって勧められています。ある特定の宗教を信じると、いろいろなことが束縛されるとか、強制される、自由がない、視野や考え方が狭くなると捉える方々もおられます。しかし、永遠のベストセラーであり、世界中で読まれている聖書を広げてみると、そこにはこれまで見えなかった素晴らしい事実が書かれています、視野が狭くなるどころか、視野が広がり、何のために存在し、生きているのかが分かるだけでなく、実際にどのように生活していったら良いのか、つまり歩んでいったら良いのか、大切な指針が書かれているのです。だからこそ「神のことば」である聖書は世界中の人々に愛され、読まれているのもうなずけます。

聖書に書かれている確かな希望と約束を読んで、それを受けとめて、歩むことができますように、キリストを信じて歩むことがどんなに幸いなことであるかを知ることができますように、また寒さが日ごとに深まりますので、日々、ご健康も守られ、支えられますように心よりお祈りいたします。